



園だより 1月号

令和 4年 1月11日

和歌山市立西和佐幼稚園

園長 藪本 みゆき

あけましておめでとうございます 本年もよろしくお願い致します

2022年、新しい年がスタートしました。お正月は、どのように過ごされたでしょうか。年末年始をご家庭でゆったりと過ごすことは、子供達にとっては、普段とは違った特別な時間だったのではないかと思います。今日から幼稚園が始まりました。冬の自然に触れながら、今まで通り子供達が楽しいことを見つけ、夢中になって遊び込めることが出来るような環境作りを取組んでいきたいと考えています。

3学期は、5歳児にとっては最後の園生活になります。3歳児、4歳児にとっては進級する前の大切な時期です。短い3学期ですが、一人一人が自分の力を十分発揮できるように、意欲をもって遊びや活動に取り組めるように職員一同、努めていきたいと思っています。

今学期も保護者の皆様のご理解とご協力のほど、よろしくお願い致します



◎鏡開き

正月の間、年神様が宿る場であった鏡餅を割り、無病息災を願いながら、お雑煮やおしるこ、ぜんざいなどにして食べることを鏡開きといいます。鏡餅の鏡とは、お餅の丸い形が昔の銅鏡に似ているから。お餅をお供えし、開き、食べることで「1年を幸せに過ごすための力を授けてもらう」という意味があるそうです。

鏡餅は、包丁を使わず、手や木づちなどで餅を割ります。これは、年神様との縁が切れないように、また刃物で切ることを嫌っていたとも言われています。鏡開きは、毎年1月11日に行います。(地域によって違います)これから1年間、家庭円満を願いながら、お餅のかけらも全て食べるのが良いとされています。園でも、子供達に鏡開きの由来をお話します。

今年度も、四季折々の日本の行事のいわれなどは、各クラスで話す機会をもっています。それらに込められている人々の願いに少しでも興味関心をもってもらいたいと考えています。

年神様とは・・・元旦に家々に新年の幸せをもたらすために高い山から降りてくる神様が「年神様」であり、「正月様」「歳徳神(としとくじん)」とも呼ばれているそうです。昔の人は祖先の霊が田の神や山の神になり、正月には年神となって、子孫の繁栄を見守ってくれているのだと考えていたそうです。



◎絵本の貸し出しについて・・・後日手紙でお知らせします。<1月14日(金)から開始予定>

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、しばらくの間、行っていなかった絵本の貸し出しを希望者のみで再開しようと思います。詳しくは、別紙でお知らせします。よろしくお願い致します。